

平成27年10月27日

平成27年度 第1回「学校関係者評価委員会」中間報告

1 概要

(1) 日時 10月21日(水) 15時30分～17時00分

(2) 場所 広島城北中・高等学校 第2会議室

(3) 出席者

学校関係者評価委員	丹戸坂中学校校長 佐伯広島城北高校同窓会副会長 佐藤広島城北中・高等学校PTA会長 三田戸坂城山小学校校長(欠席)
教職員	岩本校長 藤田副校長 中川教頭 二宮総務部長 藤岡教務部長 下木進路指導部長 宮本生徒部長 勝間生徒指導部長 亀田入試広報部長 ブランチ国際理解教育部長 中野保健部長

2 内容

校長挨拶及び出席者の紹介後、各部から学校経営計画に沿って現状を報告した。

(1) 教務部より

- 教育改革を見据えた「授業改善」の進捗状況について
- それに伴う校内研修会の実施状況及び今後の予定

(2) 進路指導部より

- 面談を通じた進路指導の成果

- 学習時間の確保を目的とした学習環境の提供が検討不足
- 分掌を超えた横の連携を密にした取り組みを推進する必要性
- (3) 生徒部より
 - 中・高一貫校の特色の一つとしての中高合同運動会の開催への取り組み
- (4) 生徒指導部より
 - PTA の協力をいただいての下校指導の状況
 - 校内においても挨拶ができる環境が育ちつつある。
 - 始業前登校の推奨
- (5) 入試広報部より
 - 塾や中学校への訪問回数的大幅な増加（対前年度）
 - 各入試等に関するアンケートの分析（高評価）
- (6) 国際理解教育部より
 - 海外姉妹校及び研究協力校への相互派遣の状況
 - 城北の国際交流に係る「グランドデザイン」の策定が遅れた。
- (7) 保健部より
 - 学校カウンセラーと各学年会との意見交換会について
 - 個別の対応はできるが学年としてまとまった動きになっていない。
- (8) 総務部より
 - 生徒部と連携を取りながら生徒が帰属意識を高めることに繋がる行事の精選が不十分である。

3 評価委員からの意見及び助言

- ① 今回の資料は経営計画に沿って各部のまとめや評価の指数となる基礎データが、よくまとめられているが、説明は各部毎であったためどの箇所がどの「行動計画」の評価規準になっているのかがわかりにくかった。
- ② 例えば、概ねよいというまとめに対し、評価がCとなっている。評価の基準をもう少し明確に客観的に判断できるようにした方がよいのではないか。BとCの違いが評価規準だけでは読めないような気がする。
- ③ 所掌事項が達成できない理由に「忙しい」とあったが、それを理由にされない方がよいのではないか。各人が連携をとるなどして対応されてはどうか。また、教員の横の繋がりを強めることで、組織的な動きが取れる

- よう、校長をはじめとする管理職の方々のリーダーシップに期待したい。
- ④ 同窓会として、学校のよりよい発展を目的に文化祭へ参加させていただいているので、もう少し同窓会との連携も密にいただき、同窓会として支援がしやすい状況を配慮いただきたい。生徒を見ると生活面では非常に良くなっているが、進路実績はよかった時代にくらべ今少し物足りない。同窓会としては、学校（母校）の更なる発展（存続）を願っている。
 - ⑤ 学校として「基礎学力の定着」の項目についての評価がEであるが、保護者として、ここは看過できない。正直な自己評価だと思うが、今後どのように対応されるのか年度末評価に向けて検討いただきたい。
 - ⑥ 大学においても授業評価のある時代である。授業研究には重きを置いて進めていただきたい。将来的には第三者評価も含める方向に動いていくのではないかと思うが、学校全体の教育力の向上に期待したい。
 - ⑦ 今回の報告では、学校の様々な取り組みの様子がよくわかった。また、資料については、正直に包み隠さず書かれていて好感が持てた。今後も学びの場として期待したい。

以上